

関係各位

2024年7月31日

株式会社パテント・リザルト

【精密機器】他社牽制力ランキング 2023

トップ3はキヤノン、セイコーエプソン、リコー

弊社はこのほど「精密機器業界」の特許を対象に、2023年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「精密機器業界他社牽制力ランキング 2023」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2023年に最も引用された企業は、1位 キヤノン、2位 セイコーエプソン、3位 リコーとなりました。

【精密機器業界 他社牽制力ランキング 2023 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	キヤノン	6,240
2位	セイコーエプソン	3,813
3位	リコー	3,744
4位	コニカミノルタ	2,743
5位	大日本印刷	2,493
6位	オリンパス	1,909
7位	富士フィルムビジネスイノベーション	1,903
8位	TOPPANホールディングス	1,465
9位	ニコン	1,298
10位	京セラドキュメントソリューションズ	787

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2023年12月までに公開された全特許のうち、2023年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計を行っています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2024年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 キヤノンの最も引用された特許は「絶縁層を有する酸化物半導体素子」に関する技術で、半導体エネルギー研究所の計6件の審査過程で引用されています。このほかには「酸化物膜をチャネルに用いた電界効果型トランジスタ」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、半導体エネルギー研究所や SHENZHEN CHINA STAR OPTOELECTRONICS SEMICONDUCTOR DISPLAY TECHNOLOGY (中) などの計6件の拒絶理由として引用されています。

2023年に、キヤノンの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はリコー(412件)、次いでコニカミノルタ(388件)となっています。

2位 セイコーエプソンの最も引用された特許は「インクジェット記録装置のメンテナンス方法」に関する技術で、積水化学工業やリコーなどの計7件の審査過程で引用されています。このほか「生体情報検出装置」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、日本光電などの計5件の拒絶理由として引用されています。

2023年に、セイコーエプソンの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はキヤノン(247件)、次いでリコー(200件)です。

3位 リコーの最も引用された特許は「入力される判定対象の画像データの異常を判定する装置」に関する技術で、コニカミノルタなど計9件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2023年に、リコーの特許により影響を受けた件数が最も多い企業はキヤノン(424件)、次いでコニカミノルタ(333件)となっています。

4位 コニカミノルタは「透明耐熱性積層フィルムの製造方法」、5位 大日本印刷は「ショッピングカードなどの非接触給電方法」が、引用された件数の多い特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【精密機器業界 他社牽制カランキング 2023 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

(※データー式を収録した CD-R での御納品をご希望の場合はご相談ください)

・ランキング トップ 50 社：本業界の被引用件数上位 50 社のランキング

・被引用件数 トップ 100 件：本業界の被引用件数上位 100 特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000 円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp